

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

蒜山

日付 平成 21年 1月 6日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験3年
介護職経験12年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

午前10時前グループホームを訪問すると、利用者の皆さんは食卓テーブルに勢ぞろいしていた。午前中のティータイムだった。私たちも仲間に入れていただき、私たちの挨拶をさせていただくと、利用者の方々と職員の皆さんが自己紹介をしていただき、今日一日の私達との時間がスタートした。この始まりは昨年訪問させてもらった時と同じであり、昨年にお目にかかった懐かしい人もたくさんおられた。本日は特養ホームやデイサービスの庄長をされている管理者も同席していただけた。

窓辺のソファのコーナーに移って、利用者はお昼までゲームや歌を歌ったり、体操や口腔リハビリをして身体を動かしたり、脳に血流を与えている。そして利用者同士や職員を交えたコミュニケーションの時間となる。「雪が降ったけん、外は寒いなあ」と窓から隣のデイサービスの屋根から落ちる雪解けの雨だれを見ながら利用者が話していた。今朝は、いつもとは早目の白銀の世界だった。

平成19年4月に開設してから1年半を経過して、先ず利用者が落ち着きを見せ、帰宅願望の人がなくなった。中にはまだ自宅で過ごせるようになったと帰宅された人もいる。このような事例もあるが、利用者の殆んどは自分の住み慣れた家を忘れる訳ではないが、このホームで皆と生活することが一番楽しい、安心だと思ってくれる環境が出来たということだろう。グループホームは今まで生活してきた自宅や病院・施設より「個々が一番安心して暮らせる所だ。私はここで生活したい」という場を提供するのが、グループホームの介護のプロだと、職員に求められていることだと私は思っている。このホームを見て、理念にもあるように「あなたらしい生活を温かい介護でサポートします」をまさに職員が一致協力してきた素晴らしい足跡だと思う。それは、職員も利用者も同じ郷土の人達であり、風土習慣を含めた気持ちやお付き合いの人間性が共通していること、もう一つは昼間に勤務している職員のグループと夜に勤務している職員が専任化されており、利用者の一日の時間帯の流れと一緒に過ごす職員の人間性が一致していることで、利用者に安心感が高まっているのではないかと感じた。利用者の落ち着きは、安心・満足・信頼の上に成り立っている。この3つの心の通いがある関係作りが最高の一人ひとりの尊厳を大切にすることである。利用者の重症化への対応は、隣に特養ホームもあるが、認知症の進行は、職員や家族の優しい気持ちと認知症の本当の知識を得て利用者に接する職員の心が最高の薬になって心が和らげられると思う。「眼が覚めたら、やっぱりここがええ」と笑顔で言ってくれるホームをいつまでも続けていける資質を

特に改善の余地があると思われる点

利用者と職員間のコミュニケーションは活発にしている、全体の雰囲気は大変和やかだと思う。一人ひとりの心を動かすには、利用者や職員が1対1でお互いの心を通わせることも必要だと思うので、先ず1日10分程度職員と利用者で心の通う、気持ちの通じ合うコミュニケーションをしていっては如何だろうかと思う。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：開設時に母体法人の理念を共通理念として、職員ミーティングでも話し合い、職員全員で共有している。ホームでの利用者の状態を見ても、この理念に掲げた環境の下で、安心して生活している様子が伺えた。運営推進会議でも地域の人にも説明して理解して貰っている。</p> <p>2、全体的に見て…：理念「あなたらしい生活を温かい介護でサポートします」を各職員一人ひとりがしっかりと実践していく為に、職員の温かい介護を具体的に説明している。自分らしい生活が出来る。明るく生活し易い。利用者のプライドを大切に。プライバシーが保てる。介護技術のレベルが高い。いつも清潔。美味しい食事を提供する。職員にゆとりがある。外部との交流がある。これらの心掛けをしっかりと実践している事も確認出来た。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特養ホームとデイサービス事業をしている敷地内に隣接してグループホームを建設したので、全体スペースには制約があり、こじんまりした空間であるが、内部は木材をふんだんに使い温かみのある雰囲気があり、利用者の動線から考えると行動し易いコンパクトな設計になっていて良い。</p> <p>2、全体的に見て…：リビングルームは食卓部分とソファで寛ぎ部分があり、利用者は自分の好きな時間と皆と一緒に楽しむ場所を使い分けて生活している。壁には利用者の作った習字や貼り絵が貼ってあり、利用者の生活して来た様子がよく判る写真が貼ってある。利用者はその写真を見て、日頃の生活ぶりを説明してくれた。利用者が思い出を楽しみ、お話をしてくれるきっかけ作りとして活用しているのは大変良い事だと思った。居室には自分の使っていた家具や道具を持参し、それぞれの個性を発揮していた。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人ですることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：開設してから2年目なので、初期に定めたケアやサービスの方針を変えて改善していく段階ではないかと思う。今まで実践してきた事一つずつ重軽を考へて業務の改良や職員の資質の向上、家族との交流等を進めていけば良いと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：一人ひとりの生い立ちや生活歴を大切に、本人の人生で一番良かった頃を大切に日々の生活の中で生かしていけるケアの方法をよく考慮している。例えば、戦争に行き軍艦に乗っていた人、自分の子育ての頃を楽しみながら人形を抱きあやしている人、若い時から農業をしていた人が菜園場では表情が活き活きして居る人等、利用者一人ひとりの昔取った杵づかを活用して生活の中で楽しんで貰え、人間味が増し表情豊かに仲良く生活している姿は尊い。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：運営に関しては、大きな社会福祉法人の母体の元、この地域の特養ホームを中心に蒜山の一つの丘の上にある施設の中で活動している。法人の本部の責任者の一人が管理者でもあるので、ホームの課題もよく知って貰っているだろうが、職員数は改善の方向で充足して、昼間の大部分を1対3の職員が確保出来るようにして貰いたい。</p> <p>2、全体的に見て…：主任と職員は、理念にもある目標を大切にして、利用者との心の通い合いを大切に、よく頑張っていると思う。職員が仲良く元気に、笑顔で居る姿が、利用者にとっても大きな鏡となる。職員のような姿を見れば、自分の幸せも感じるだろうし、職員に対する労わりの言葉も生まれ、それを糧に職員は頑張れるのだろう。グループホームは利用者職員、そして家族も加わったチームワークで成り立つ。これがグループホームに求められた生活の場であろうと考えている。</p>		